

■「挑戦と創造」の懇話会(R4.2.24開催)
基本計画に記載すべき重点施策に関する主な論点

政策	目標	主な論点
1 市民・自治	1 全ての人が互いに尊重しあうまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・排他的な部分や、女性の生きづらさを感じる地域であり、意識改革が必要。会議名称等の表現においても、男女という垣根は必要ないのでは。
	2 一人ひとりが主役のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動の中間支援について、公的な活動だけでなく、民間や法人に対してのサポートがあると、長浜市の計画に広く参画できるメンバーが増えるのではないかと。 ・地域づくり協議会でのイベント開催については、その地域だけで行うのではなく、他地域と連携して、遠方地域のイベントにも参加できるような仕組みがあっても面白いのでは
2 教育・文化	1 家庭・地域・学校が学び舎のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・若い親世代は、教育に対する関心が高いと感じており、特色のある学校、教育にスポットを当てることも必要ではないかと。 ・子どもの多様性を受け入れられる教育のあり方も大切。そういった観点が学校の魅力となり、子育て世代が集まるまちづくりにつながるのでは。 ・人口減少に伴う学校の小規模化は、量が減る分、質の向上が必要。1つの小学校での完結を目指すだけでなく、デジタルの活用により、先生の負担を軽減しながら繋がりを作っていくことができるのでは。そのためのインフラや空間づくりを進めることが、地方格差を埋める意識改革に繋がる。 ・未来へ投げかけられるようなビジョンが大事であり、エリアごとに特色が違うことを考慮した計画を打ち出してはどうか。例えば、教育の視点で、長浜バイオ大学を中心としたアカデミックなまちづくりにより、情報系・工学系・芸術系を学べる、人を育てる構想があっても良いのでは。 ・高校の特色をアピールして、評価基準を変えてしまうような戦略を地域全体で考えていくのも必要かもしれない。 ・学校の魅力化について、虎姫高校にはIB資格を取得するための県内唯一のコースがあり、これをもっとPRすればよいのではないかと。
	2 豊かに学び感性を磨くまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・富田人形について学ぶ機会や担い手の育成に力を入れていくことが課題
3 健康・福祉	1 子どもが輝き大人が育つまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・多子世帯への保育料軽減事業は、女性の社会進出に寄与したが、学童保育利用に切り替わった時に、継続して仕事ができる環境を整えられるよう徹底してほしい。保育園と学童保育では、行政の部署が異なっても、ライフステージとしてはつながっているもので、そこをフォローする体制を作っていかなければならない。 ・待機児童の問題は、施設不足ではなく、保育士等の人材確保が課題であると思う。また、子育てしやすいまちづくりとして、保育所入所の際の点数制度の見直しも検討してほしい。 ・過疎地域の保育園をどう守るかについて、人口が減少しても身近で預けられる仕組みを考えてはどうか。
	2 健やかで豊かに暮らせるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域格差・経済格差を顕著に感じる。人口減少が進み、国の経済力が落ちていく中で、未来とつながる視点も必要ではないかと。あるべき姿だけではなく、なってはいけなない姿から逆算した施策もあった方がよい。 ・コロナ禍において、将来への不安感があるので、感覚的な安心感を与えるようなものを盛り込んでどうか。例えば、性別にかかわらず生活していく力を学ぶセクシャリティ教育を取入れたり、病気やしょうがいを持った場合でも、将来に安心感を持てるような施策があると良い。
	3 一人ひとりが支えあい助けあうまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・医療福祉の支え手不足を解消すべく、資格やスキルを入手でき、育成するための場所・環境があるとよい。

■「挑戦と創造」の懇話会(R4.2.24開催)
基本計画に記載すべき重点施策に関する主な論点

政策	目標	主な論点
4 産業・交流	1 たくましい経済基盤をつくるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことを考える上では、居場所や生きがいといった視点も重要。女性に限らず、多様な働き方ができるということは大切。 ・女性の起業も増加しており、女性が起業に挑戦しやすい仕組みも盛り込んでどうか。 ・女性活躍の推進については、働き手の減少に対しても効果的であると思う。一方で、「働く」を通して女性が生き生きと活躍できるという点についても、もう少し具体的に盛り込んでどうか。 ・農業の担い手をどう作るかが重要。ビジネス展開につながるような、バイオ大学との連携も進めていきたい。 ・体験型観光が、雇用促進や、観光から移住につながればよいと考えている。一方で、土日スタッフを応募しているが、子育て世代は勤務が難しい。会社の中に従業員の託児ができるような仕組みがあれば、働き手が増えると思う ・大学や専門学校への進学のため、若い人が市外に出ていった後、地域に愛着を持って帰ってきたいと思うか、働く場所があるか、という点が重要だと考える。特に働く場所については、現代の多様な働き方を受け止められる場所を長浜市が提供できるか、検討を進めていきたい。 ・「働く場所がない」状況と、「働き手がない」状況について、ミスマッチを埋めていくことが重要。人口ビジョンにおいては、働き手が減少していく中で、女性や高齢者など、様々な制約の中でも働きたい人が柔軟に働ける場を作ることが重要であると認識している。女性の起業や創業については、従来の商工振興課の創業支援をふまえて、今後、移住者の創業支援など、総合的に考えていきたい。
	2 新たな産業を創り育てるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・産学官金の連携によるアグリビジネスの展開についてもっと力を入れてもよいのでは。バイオ大学の高度な技術を使って、新しい視点で新しいものが作れるのでは。長浜市でしか出来ないものを新しく作っていくことも重要であり、その中で農業はキーワードになってくと思うので、地域の中小企業が入っていけるような仕組みがあると、面白い展開ができるのではないかと。 ・長浜を滋賀県の湖北に位置する中核都市として打ち出してはどうか。例えば病院や学校、企業の機能の一部を誘致するなどして、外とのつながりを強化し、資本を増やしていくようなプロジェクトができると良いと思っている。
	3 地域の魅力を受け継ぐまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能については、居住者よりも移住者の方が魅力に感じることもある。地元だけで完結せず、移住者など外の人間を入れた方が、伝統をどのように次の世代に残していくか現実的に考えられる。 ・合計特殊出生率が下がっていく中で、移住者を増やしていく事は必要。
	4 交流でにぎわう観光のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・おしゃれでセンスのあるユーチューバーなどの情報化の動きを取り入れ、教育や芸術・伝統文化ともリンクさせて、発信の仕方を刷新していくことも必要。
5 安心・安全	1 犯罪や交通事故の少ないまちづくり	
	2 防災・減災対策の充実したまちづくり	
6 環境・都市	1 地球環境にやさしいまちづくり	
	2 自然を守り育てるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・重点プロジェクトの「地域環境との共生」プロジェクトについて、守り活かしていく対象がはっきりしていないため、地域の資源を把握したうえで、事業を展開していくべき
	3 居住環境の整ったまちづくり	
	4 生活基盤の整ったまちづくり	
7 その他		<ul style="list-style-type: none"> ・人口動態について、転出人数が男性よりも女性の方が多い。市内移動状況を見ても、旧伊香郡地域から長浜市南部へ移動されている。この流出の理由がわかれば、人口減少の対策につながるのではないかと ・縦割りで小さくまとまったものではなく、大きくて夢のある計画を作ってほしい。